

令和六年度入学者選抜試験問題 後期日程 小論文 解答例

設問一

傍線部の理由について、本文の内容を踏まえて一〇〇～一五〇字で説明しなさい。

【解答例】

女性は「女性は女性らしく、他人と表立って競争するのではなく協調するべきだ」という規範の下で社会化されており、競争をとまなう選挙へ立候補することをためらいがちになる。一方で、男性はそのような規範の影響を受けないため、容易に選挙へ立候補できるから。(一二二字)

設問二

女性議員が男性議員よりも少ない事実から生じる問題点について、あなたの考えを四〇〇～五〇〇字で説明しなさい。問題点は字数内であれば複数述べてもよい。

【解答例】

一つ目は、女性議員が働きやすい環境が整いにくいことである。日本では男性が政治活動の中心であったため、女性議員の働きやすさがあまり検討されてこなかった。女性議員には性別による差別やハラスメントを受けるリスクがあり、家事や育児との両立の問題を抱える場合もある。男性議員が多いと、このような問題が解消されにくく、女性は選挙へ立候補しなくなる。そのため、クォーター制のように女性議員の数を法的に確保するとともに、女性議員の働きやすさを整えていくことが必要である。二つ目は、男性議員が多いことで、女性の関心が高い政策が十分に実施されていないことである。例えば、現在、少子化が進行しているが、それはこれまで子育て政策が十分に実施されてこなかったからである。他にも、出産後の仕事復帰を促す政策も他の先進国より充実しているとは言えず、女性がキャリア中断やそれを恐れて出産をあきらめてしまう問題が生じている。これらは「子育ては女性が行うもの」と考える男性議員が政治の多数派を占めてきたことでないがしろにされてきた政策である。女性議員が増えれば、女性にとって有益な政策が充実するはずである。(四八五字)